

プロトコル名 大腸癌 CPT-11+ベクティビックス療法

適応 KRAS遺伝子野生型の治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌

投与期間 2週を1コースとして、効果がある限り継続

投与計画

薬剤名	基準量
ベクティビックス	6 mg/kg
カンプト	150 mg/m <sup>2</sup>

KRAS遺伝子野生型を確認 年 月 日

UGT1A1遺伝子検査結果 年 月 日

-/- :減量不要

-/\*6 又は -/\*28 :減量不要

\*6/\*6 又は \*28/\*28 又は \*6/\*28 :70%量を目安に減量

薬剤名	投与量	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
ベクティビックス	6mg/kg		↓													
カンプト	150mg/m <sup>2</sup>		↓													

- ①生食100ml(ルートフラッシュ用)
- ②グラニセトロン1B+オルガドロン4A(30min)
- ③生食100ml+ベクティビックス 6mg/kg (1hr) **投与前後、生食にてルートフラッシュ**
- ④生食500ml+カンプト 150mg/m<sup>2</sup> (90min)
- ⑤生食50ml (5min)

生食100ml	グラニセトロン オルガドロン 30分	ベクティビックス 生食100ml 1時間	カンプト 生食500ml 90分	生食50ml 5分
---------	--------------------------	----------------------------	------------------------	--------------

ベクティビックスは0.22ミクロン以下のインラインフィルターを通して投与すること

ベクティビックスは生食で希釈すること

定期的に血中マグネシウム濃度測定をおこない、必要に応じて補正をおこなうこと  
皮膚症状に対しては、セット処方をも有効活用すること

●休薬・減量基準

・次表の基準を参考に、減量・休薬をおこなうこと

白血球数	3000/mm <sup>3</sup> 以上で実施可能
血小板数	10万/mm <sup>3</sup> 以上で実施可能

・ベクティビックスによる重度(Grade3以上)の皮膚障害発現時は以下の表を目安に用量調節をおこなうこと

皮膚障害発現時の ベクティビックスの投与量	投与の可否	投与延期後の状態	ベクティビックスの用量調節
6mg/kg	投与延期	6週間以内に Grade2以下に回復	減量なし 又は 4. 8mg/kgへ減量
4. 8mg/kg	投与延期	6週間以内に Grade2以下に回復	3. 6mg/kgへ減量
3. 0mg/kg	投与中止		

※6週間以内にGrade2以下に回復しなかった場合は、ベクティビックスの投与を中止すること